

as^{ア ス}

2018.06.01

創刊号

明石高専建築会 会報誌

「創刊にあたって」

明石高専建築会 執行代表理事 羌 叡應

「あいさつ」

明石高専建築会 理事長 宮脇 正博

明石高専建築学科 学科長 平石 年弘

「事業紹介」

「特集：卒業生の今」

【建築を近づける】

ゲストハウス木雲(もくもく)代表 森川 真嗣 [33期]

【アフリカ・キリマンジャロ山頂5895mでギター弾き語り】

ラウンド・リサーチ代表 藤本 明生 [15期]



表紙写真：ゲストハウス木雲(もくもく)

P5~P6 で特集

明石高専建築会 会報誌as[アス] 創刊号 発行日2018.06.01 発行 明石高専建築会 デザイン制作 cosidesign [ハナムシサコ 37期]



明石高専建築会

<http://anctkenchikukai.sakura.ne.jp/>

明石高専建築会



as^{ア ス}の由来

「as」と書いて「アス」と読みます。これには、他の単語と結びついてさまざまな働きをする英単語の「as」の多様性に加えて、「us（私たち）」や日本語の「明日」といった意味が込められています。また、明石高専建築学科を表す「a」に複数形の「s」を付け加えることで、在学生、卒業生、教職員等から成る建築会会員を表しています。

創刊にあたって

— かさねあわせ、おりかえす —

明石高専建築会 執行役員会は、2016年より新たな情報事業の一環として改めて会報誌創刊への意欲を示し、この2年間を準備期間と位置づけ、実施に向け協議を重ねてきました。

明石工業高等専門学校 建築学科で研鑽を積んだ多くの会員が、長きに渡り社会との関わりを模索する中で、物理的な建築生産の場を超え、個が躍動する空間を切り開いてきました。この会員が織りなす時間の文様、即ちその豊かな情景を映す多彩な情報群を共有し、現在地として各々が立脚する島嶼の融和を図る対話形式を再構築する中で、更なる研学と実践を可能とする事業の探求のひとつとして、この試みは発案されました。

創刊に向け手掛かりとしたのは、執行役員会が事業運営において指標とし、大切に育んできた言葉です。

「重ね合わせ、折り返す。」

重ね合わせ (superposition) とは、時の流れを受継ぎ、出会いの機を創造し、ひとの想いを集約しつつ、以前と以後の絆を結うことです。

また折り返し (turn) とは、重ね合わせた重層的な空間を切断することなく、新たな関係の形を発見し、次世代へ展開を試みることです。

かつて先輩方の絆により創刊された会報誌「aer (アー)」に多様な想いを重ね合わせ、折り返す。明石高専建築会の現在地を示す新会報誌「as (アス)」をこれよりご支援いただければ幸いです。

明石高専建築会 執行代表理事
羌 叡應 (28期生)



明石高専建築会 理事長
宮脇 正博 [1期生]

入梅の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

明石高専建築会は、私達1期生が卒業してから20年後の1991年4月27日に設立され、今年で28年目を迎えました。会員数も2000名を超えました。

私自身、今日まで建築会の運営に長年携わることにより、この会を通じてさまざまな人と出会い、親睦を深めることが出来ました。これは、私にとって大きな財産であり、誇りでもあります。現在の執行役員会は、28期生～44期生の若い世代により運営されており、在校生を含めた建築学科との連携強化や地域との交流を通じた活動など、その事業内容の幅も広がってきました。その活動の一環として、建築会の活動などを会員の皆様にご報告すべく、このたび会報誌を創刊することになりました。

会員の皆様におかれましては、今後とも、建築会の活動に積極的にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。建築会を代表し、会報誌創刊の挨拶とさせていただきます。

明石高専建築学科 学科長
平石 年弘



1991年4月に創設された明石高専建築会は今年で27年になります。これまで、卒業研究・設計展の支援、中学生への明石高専建築学科の知名度アップ、在学生と卒業生との交流など、教育・人材育成に多くの支援をいただき感謝しています。

グローバル化による国際協働の増加、ICT発達による自学機会の提供、少子化による対人コミュニケーション経験の不足など多くの外部変化の中で高専教育も変化しています。今後も高専教育には卒業生を始めとする学外との協働、支援が必要不可欠となってきています。是非、これからも学生の成長機会の提供に力を貸してください。

一方で卒業生の交流やネットワーク作りの場として建築会が機能し卒業生同士や卒業生を通じたネットワークが広がることを期待しています。この建築会会報誌がその機会となれば幸いです。

明石高専建築会 事業紹介

明石高専建築会は、建築の学術、芸術、教育の発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的として、1991年4月に創設されました。会員は正会員（卒業生）+準会員（在学生）+特別会員（教職員等）により構成されており、現在その数は2,000名を超えています。

また、「支援」「交流」「情報」「運営」の4つの柱から成る事業については、理事会の承認を得て、執行代表理事により選出された執行役員を中心に運営されています。ここでは、建築会の主な活動内容について詳しくご紹介します。



2018年3月10日 第5回建築会賞

多彩な分野で活躍する会員が審査員となって5年生の卒業研究を審査する建築会賞では、実社会という教育現場とは異なる視点による評価が見所です。ポスター展示による1次審査、プレゼンによる2次審査により、最優秀賞1点、奨励賞4点が選出されます。



※2017年度 第5回建築会賞 受賞者一覧

- 最優秀賞 チウ エッタイ（設計）
「古い土地の新しい夜明け～プノンペンにおけるスラムコミュニティ再編集計画～」
- 特別賞 大月 康平（論文）
「高炉スラグ微粉末とフライアッシュを使用した多成分系コンクリートの中性深さ特性に関する研究」
- 奨励賞 西本 清里（設計）
「音楽の湊～海を臨むオペラハウス～」
- 奨励賞 檀野 航（設計）
「MOTOKOH3」
- 奨励賞 森上 寛菜（設計）
「おさなき日のいどり」



2017年6月10日 2017年度進路相談セミナー

進路相談セミナーでは、本格的に卒業後の進路を検討し始める4年生を対象に、建築業界のみならずさまざまな分野で活躍する会員が相談相手となって、仕事や進路に関する学生の素朴な疑問に答えます。2017年度は24名の卒業生と40名以上の学生が参加しました。



交流

2017年10月21日～22日 2017年明石高専建築会見学旅行

会員相互の交流及び建築への造詣を深めることを目的とした建築見学会では、「世界遺産石見銀山と出雲大社を巡る旅（平成23年）」「くろしおでいく那智勝浦・熊野世界遺産の旅（平成25年）」「世界遺産国立西洋美術館を巡る旅（平成29年）」など、「建築」をキーワードに、世代の異なる会員が旅を共にしてこれまで全国各地の数々の名所を訪れました。



[左]明石高専建築会 会報誌「as」編集打ち合わせの様子 [右]FACEBOOKページ

建築会公式ホームページによる情報発信、Facebookを用いた執行役員による週替わりの近況報告、年に1度の会報誌の発行など、建築会の活動報告のみならず会員相互の親睦を図る場として、目的に応じて各種媒体を有効に使い分けた情報事業を展開しています。



[左]理事会 [右]執行役員会

建築会の今後の事業の在り方については、神戸市勤労会館を主な会場として、月に1度の定例会で執行役員により協議されています。会議の内容については、上部組織である理事会へも共有され、議決事項については、2年に1度の総会で会員の皆さまへ報告します。



『建築を近づける』



ゲストハウス木雲(もくもく) 代表
森川 真嗣 [33期]

プロフィール

- 1981【0歳】大阪市内の風呂屋の三男として生まれる
- 1997【15歳】明石高専入学(学籍番号A9734)
- 2000【18歳】アメリカ語学留学(調子に乗った)
- 2003【22歳】明石高専専攻科入学(工藤先生に、ただただお世話に…)
- 2006【24歳】明石高専卒業(結局、明石高専に9年在籍…)
- 2006【25歳】フィンランドへ留学(1年でやむなく…)
- 2007【26歳】東京のアトリエ系で建築をめざし、挫折…
- 2008【27歳】CASEまちづくり研究所へ入社(えつまちづくり?)
- 2015【34歳】CASEを退社
- 2016【35歳】ゲストハウス木雲を開業(いわゆる宿屋です)
- 2017【36歳】結婚し、1児の父に(うそみたい)

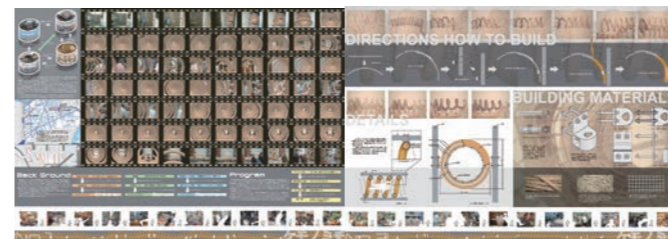
2018年4月7日、明石高専の学生4名が、ペンキ塗りを手伝いに来てくれました。凄く懐かしい思いがして、建築について、素数について、また、大富豪のローカルルールについて、熱く情報交換をしました。



ペンキ塗りの様子

2001年、僕がまだ明石高専の4年生だった頃、9.11アメリカ同時多発テロがありました。旅客機が高層ビルに突っ込んでいく様は、建築そのものに向けられた悪意のように感じられました。2002年4月に高専の5年生になり、正式にゼミに配属された時点で、既に高層ビルが嫌いになっていました。エレベータにエアコンという、エネルギーを使わないとそこに居る事すらままならない建築は、自然の摂理から遠く離れてしまっているのではないかと。だから旅客機が突っ込むなんていう非

現実的な事が起きてしまうのでは無いか、というような思考です。これは極端な思考ではありましたが、結果的に、人の手が関わる時間が長い方が「近い」建築であり、そういう建築が好きだなあと思うようになりました。卒業研究では、自分の出身地である大阪市東淀川区の淡路をフィールドに、子ども達と商店街の店主をつなぐ、「ケモノミチ」という作品を作りました。今ふり返ると、苦し紛れです。頭の中のやりたい事と現実が交わらなくて、商店街の舗装されているタイルを数え、縄と土で模型を作り、謎の金物の図面を描き、建築を「近づけよう」とした、苦し紛れだけど、まさに僕の原点です。



卒業研究プレゼンボード

この時、ゼミの工藤先生から「あなたは淡路の町医者の建築家になるのも良いかもよ」と言われたのですが、まさに、そのような生き方をしていると実感するだけに、恐ろしき予言となりました。

明石高専の専攻科を卒業した後、フィンランドへ留学しました。フィンランドを選んだ決め手は、木を使い、自分達の手で等寸大の建築物を作る事ができる、という事。



フィンランドの様子

もちろん、楽しかったのですが、季節が冬に向かうにつれ、気分がやさぐれていき、授業態度の悪い学生になってしまいました。夜型の人間とはいえ、ずっと夜だけだと辛いんだな、そういえばドラクエとかでも、夜だけの魔界に行ったとたん、やる気が失せたな、なんて考えていました。

その後、まあ、色々ありまして、2018年現在、卒研の

フィールドでもあった大阪市の淡路で、なんと、ゲストハウスを経営しております。このゲストハウスですが、元々は3軒長屋で、端から焼き肉屋・おばあさんひとり暮らし・借家、でした。この長屋を1年かけて大改修。設計士さんやプロの大工さん、電気屋さんなどにもお願いしたので、100%自分の手作りとは言いませんが、できるだけ自分達の手で作ろうと、頑張った建築です。



木雲(もくもく)ピフォー・アフター

というわけで、僕は、今、建築ど真ん中の生き方をしている訳ではありません。日常の業務は宿泊者の予約管理であったり、清掃であったり、時にはイベントでお酒をつくったり、あるいは商店街組合の雑務をやっていたりします。では、建築では全く無いのかと言われると、なんだか、そうでもなかったりするんです。まだまだ、建築を近づけている最中です。実は新しい物件も手がけていて、冒頭のペンキ塗りは、そのやつです。気になる人は、是非、泊まりに来て下さいな。建築の話をししましょう!



■ゲストハウス木雲(もくもく)
住所：大阪市東淀川区淡路4丁目33-4
問合せ：info@mokumoku-mogumogu.com



『アフリカ・キリマンジャロ山頂 5895mでギター弾き語り』



ラウンド・リサーチ代表
土地家屋調査士・一級建築士
藤本 明生 [15期]

プロフィール

- 1965年 明石で生まれ「明生」と命名
- 1980年 明石高専建築学科に入学・入寮
- 1985年 明石高専に勤務(大学浪人)
- 1986年 豊橋技科大学3年~大学院
- 1990年 兵庫県職員、先生として着任
- 1999年 土地家屋調査士・一級建築士で独立開業(明石)し、現在に至る

趣味 ギター弾き語り、テニス

あと1年で命が終わるとしたら？

友人が42歳で死んだ。脳卒中だった。「まだまだやり残した事、あったやろな〜」と知人と酒を飲んでいて、ふと聞かれた。「もし、あと1年で命が終わるとしたら、何をやる?」。心の奥にある、記憶の扉がギグギーと開き、あの時の瞬間を思い出した。

23歳、キリマンジャロで遭難

23歳の時、「7大陸ギター唄い歩き」に挑戦中、4番目の大陸であるアフリカにいた。そこで、キリマンジャロの存在を知り、ギネス記録「世界一高所でのギター弾き語り」をかけ、挑戦した。だが、登山5日目の標高5300m高山病になり自力で立って歩く事すら出来なくなった。頂上まであと600m。寒い! 頭が痛い! 岩陰に座り込む。吹雪で1m先が見えず、足から雪に埋まっていく。

このまま死ぬのか? 死にたくない! しかし、睡魔に勝てず意識が遠のいていった。気づいた時には、救助隊に助けられ、雪の斜面を4人がかりで、ひきずり降ろしてもらい生還した。「そう、やり残した事。これをやり遂げないと!」こうして、28年越しの再挑戦が始まった。



救助隊にたすけられている様子

高専潮寮から始まった

明石出身だが、自由を求め入寮した。ギターは、寮祭での日高修先輩(建築11期)の弾き語りを見て始めた。海外一人旅は、恩師藤原勉先生のお見舞いに行った際に、「一人旅をしなさい。困り、失敗し、喜び、絶えず自分の判断が結果をもたらす事を体験しなさい。旅は人生の縮図である」と聞き、「7大陸ギター唄い歩き」が始った。15歳当時、考えもしなかったが、入寮がキリマンジャロ弾き語りへのきっかけとなったのである。

51歳からの再挑戦

1年間トレーニングを積み、日本を出発。いざキリマンジャロへ。麓から順調に登り、7日目4640mに到達。仮眠して23時、頂上までのご来光を目指し、最終キャンプ地を出発。夜明け前5500mに到達。だが、高山病がひどく、意識朦朧。3歩進んでは立ったまま寝る。一番つらい時間帯だ。恥も見栄も捨てて、逃げ帰りたい。そんな時、空が白み、氷河が朝日に照らされ茜色に染まる。太陽って凄く! 暖かい! どんどん足が進む! 6時30分、頂上に立った。眼下に視界をさえぎるモノはない。気分爽快! 早速ギターを取り出すも、高山病で、手が凍傷寸前だ。ギターは弾けず、叩きながら自作曲「BE a MAN」を熱唱! もう、これが限界、精一杯だった。もう一つのやり残した事、2年後に南極大陸へ。



ギターを背に標高4600mに。酸素は平地の半分。

20歳からの夢

「7大陸ギター唄い歩き」達成まで、あと南極大陸のみとなった。2年後の2020年2月、35年かけて夢を実現させる。ペンギンの前で、オーロラの下で、吹雪の中で? 唄いたい。今から楽しみだ!



2020年南極大陸を目指す!

書籍

夢を持ち、叶える事の大切さを10代の若者に伝えたいとキリマンジャロでの体験を本にした。漫画、イラストを多用し、明石市内の学校図書館(高専も)へ寄贈。



第2版改訂版。150項B5

ご興味のある方は、
<https://fujimoto51.jimdo.com/> まで。



会員情報

明石高専建築会の会員の種別は、「正会員」「準会員」「特別会員」3つに分類されます。

- (1) 「正会員」 明石高専建築学科の卒業生、明石高専専攻科（建築系）の在校生及び修了生、その他理事会において承認を受けた者
- (2) 「準会員」 明石高専建築学科の在学生
- (3) 「特別会員」 明石高専建築学科及び明石高専専攻科（建築系）の教職員等（元教職員及び非常勤講師を含み、既に会員資格を有する者は除く）、その他理事会において承認を受けた者

沿革

- 1962年4月 明石工業高等専門学校 創設（機械・電気・土木（現 都市システム）工学科）
- 1966年4月 建築学科 新設
- 1991年4月 明石高専建築会 創設
- 1996年4月 専攻科 設置（建築・都市システム工学専攻）

役員

理事長	宮脇 正博	(1期)	執行代表理事	羌 叡應	(28期)
副理事長	中川 司朗	(3期)	執行副代表	大久保 武志	(28期)
理事	西部 宏	(5期)	執行会計	岩本 泰明	(33期)
	八木 雅夫	(8期)	執行役員	表 宏明	(28期)
	福島 重治	(10期)		荘所 直哉	(28期)
	田中 清	(14期)		辰巳 史子	(31期)
	小川 直樹	(15期)		東山 烈	(32期)
	藤本 明生	(15期)		川上 良平	(33期)
	岩井 成衡	(19期)		橋 佑一郎	(33期)
	遊川 恵治	(24期)		松尾 健治	(33期)
	馬頭 雄一	(24期)		山本 真	(43期)
				橋 一仁	(44期)



編集後記

明石高専建築学科を卒業して15年。人生において学ぶべき最も大切なことのひとつは、つまずいたときに立ち上がる術を身に付けることだと感じています。昨年、藤井聡太七段（平成30年6月1日現在）によるデビュー29連勝という大記録が将棋界のみならず日本全土を席卷しました。特に注目したいのは、29連勝を達成したこともそうですが、連勝記録が途絶えた後すぐに体勢を立て直し、今なお淡々と戦い続ける彼の姿勢です。本誌には、建築業界の最前線で活躍する会員だけでなく、途中で路線変更して現在は違う分野で活躍する会員にも登場していただきました。これは、本誌が単に建築会の活動を発信するためだけのものではなく、明石高専ならびに建築の持つ無限の可能性を読者と共有できるものにしたかったからです。

これから試練に立ち向かうであろう学生の皆さんと、日々試練と向き合う会員各位をつなぐ架け橋として、本誌が末永く愛されることを心より祈っております。

明石高専建築会 執行役員 川上 良平（33期）

募集

建築会の事業に参加したい
進路相談セミナーに参加したい
WSしたい・産学連携

あなたのやる気
待っています

あなたの活動
PRしませんか？

明石高専建築会

お気軽にお問い合わせください